

南東から北西方面（響灘方面）を望む



# 鯖釣山城を知る

## ～境域の城郭～

【城郭データ】  
 遺跡名：鯖釣山城  
 時代：〔伝〕室町時代  
 城主：〔伝〕石川高宗・石川高筐  
 主な遺構：腰曲輪？  
 登山条件：宇賀ふれあいセンターから登山道へ  
 所在地：豊浦町大字宇賀

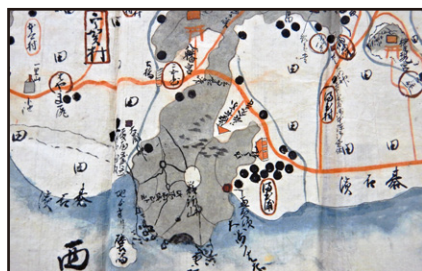
鯖釣山城には落城の際、身重ながら落ち延び命を絶ったと言われる悲哀のお姫様の伝承が残る。



### 【鯖釣山城の概要と特徴】

豊浦町と豊北町を隔て、響灘に向かって張り出す丘陵上に位置する鯖釣山。江戸時代の絵図には「城山」とあり、かつて城があったことを物語る。また、大内氏との抗争により戦闘があったとの伝えも残る。

城郭は鯖釣山の北側山頂を指し、主郭を取り囲む腰曲輪と思われる跡以外は不明である。規模から狼煙場的な用途も考えられる。



【宇賀村地下図（山口県文書館所蔵）】

地下上申絵図には、鯖釣山の北側丘陵に「城山」とあり城跡の伝承とともにその存在がうかがわれる。ただし、そのほかの情報はなく、不明な点も多く、解明が望まれる。

## 鯖釣山城のあるところ～響灘沿岸の山城

鯖釣山城がある宇賀地区は、豊浦町と豊北町跨る。宇賀八幡宮祭神の「宇迦御魂命（ウカノミタマ）」や馬牧の「宇養（ウカイ）」に由来するといわれる。近世より湯玉浦発祥の大敷網漁法で発展していた。

【アクセス】  
 国道191号線東の宇賀ふれあいセンターから、国道と線路を渡り山裾沿いに看板あり。看板から谷間の登山口へ、登山道を進めば山城頂上へ至る。



A. 宇賀の地名となった祭神「宇迦御魂命」は奈良時代に宇佐八幡宮より勧請されたといわれる。



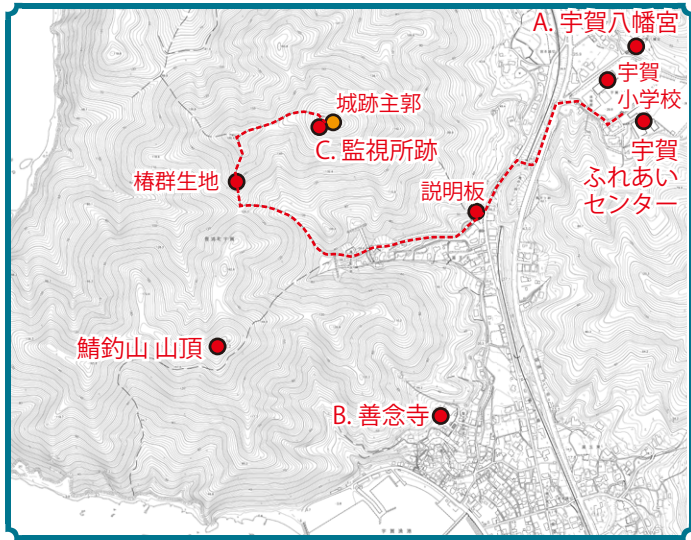
B. 善念寺には大内氏との争いで命を落とした落人の墓石とされる石塔が置かれ、また近くには懐妊の姫君の伝承も残る。



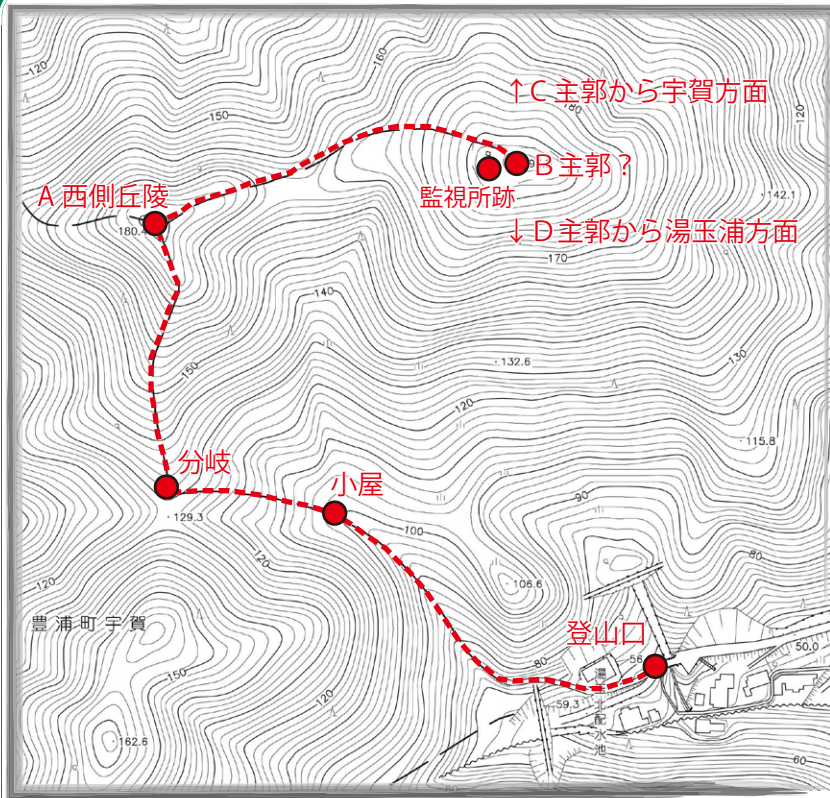
C. 響灘を見通す地理的な特徴から、中世山城のほか、近世は狼煙場、近現代には監視所としての役割も担った。



D. 現在の宇賀本郷駅近くには、鯖釣山城の城主屋敷と言われる「竹ノ下屋敷」があったといわれる。







### 【鯖釣山城の縄張り】

鯖釣山城は、豊北町と豊浦町の境にあり、交通の分岐点的位置にある。この位置的特徴から、城郭の役割についても様々考えることができる。北側の北宇賀には城主館が存在したとされ、中世の丘陵山城と麓の居館と典型的な組み合わせともいえる。かたや南側の湯玉浦の港湾集落を防御する役割と考えることもできる。

構造については不明である。主郭は、地下上申の絵図に現在の鯖釣山（南側丘陵）北側の丘陵に描かれる。ただし、主郭と想定される山頂周辺には、山城遺構と想定される痕跡はほぼ見当たらない。西側の丘陵も含め眺望が効く地形から狼煙場的な役割を持った施設の可能性が高い。よって攻防の場所とは想定しにくい。

山城の構造も含め、今後、実証も含めた調査の進展が望まれる。

## 鯖釣山城を攻める！



A：響灘方面を見渡す西側丘陵。城郭遺構の痕跡はないが、展望や狼煙場の役割も考えられる。



B：西側丘陵から見た鯖釣山城主郭。地形的に山城遺構の痕跡はほぼ見当たらない。



C：主郭から北側の北宇賀を見渡す眺望。城主館があったとされ、中世山城と居館



D：主郭から南側の湯玉浦の港湾集落を見渡す眺望。山城が集落の北側背後を守る役割とも考えられる。

## もっと鯖釣山城を知りたい…

### 【参考となる資料】

- ・「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 - 長門国編 -」（2017）山口県教育委員会
- ・「豊浦町史 2」（1982）豊浦町史編纂委員会
- ・「森上信仰の歴史民俗学的研究」（2002）徳丸亜木〔東京堂出版〕

### 【その他のご参考】

- ・豊浦町宇賀地区活性化推進協議会さま  
鯖釣山の環境保全に努められております。例年、椿が見ごろになる3月上旬に「椿まつり」を開催されています。そのほか、豊浦町街づくり協議会様により標識なども設置されております



現地には説明版のほか標識もあり、登山しやすい環境が整えられています。



例年、椿が見ごろの3月頃に「椿まつり」が開催されています。